

ル 2
3097
3



門 九 二
號 3097
卷 3

日本行記

第九篇

廣東に行遊する事

其序
二日

河を溯る事

パール河

支那の園庭

小矮園

睡接し難き美女

溝渠橋梁の事

豚を運搬する一種の法

早稲田 大學 圖書館
26.2.5
藤 森

ホガナシの大寺を視る事

危険ある画技

無難に廣東へ帰る事

高館中の消遣

河上の盗の事

翌朝早天の予ハ已小戸を出てたゞ是れ街頭尚
は静寂なる間ニ乗じて三の真景を寫さんこと
を欲せし由る然れども支那人ハ甚だ早く興
起する故ニ久々らずして土人の群聚漸く増加

予の業を止めざるを以て得ざる小至し
朝餐の後同行は將校二人ハ船に還し是れ其
告暇の期至しを以ておと總督「コムモ」の書記
及び千ハ小艇を僱い更ニ河の上流に溯れ
此舟ハ壮美なりて多般装せる「コンテル」帆を用
狭長なる以て大なる水造の居房あり其房二室
を分ちち美廉に彫塑せる家具奇巧なる画図及
ひ格子を備へたる四窓あり○揖工六人あり頗
速に溯上せり○其第一室ハ枕を具せる坐敷
ありて且小卓子を置く卓子上ハ燈を點し水

壇の一種及び美ある磁製の茶具を備へたり又
茅二室あり二個の長き捨子小席を敷ける者を
置き軟ある枕を具へ此は睡る小供す
高館より溯ると凡二里許りして「パール河の
口」に達す此河を南より來る者あり○二流相
合する處は英吉利の「フリッキ」船砲十門の者一隻
あり精巧美麗あると予が今日まで曆觀せる
所の軍艦中第一たり蓋し監守の爲に此は艤舶
し若し變あるに逢ふに救援を供する爲あるべ
し○予等の楫子ハ稍英吉利語を解せる者あり

予等と語をけるも尚ほ三里許上流に支那
の園圃ありて歐羅巴の往來を由許せり予等便
ち其園の方舟を行らしめし○一條の小な
る支流に入りて甚だ悪からざる一村あり此
處より堤築保全せる小堤に上りたり此地の廣
東の如く人民衆多ならず且つ煩擾亦甚しうら
さむれを予等先導す隨ひて右の園に達する
ふとを得し○此園は狹隘ある造築にして其
庭も赤色の磚を敷き花壇は磁製の欄を以て
圍み美麗ある花盆は幾多の花草を種えたるを

架上に列置し方寸の餘地を剩すことぬし。○此園中にて予始めて灌木及び草類を以て龍、諸鳥、魚類及び諸獸の状とぬせよと見よ。○これを作るも先其木艸の幹及大枝を勾結し時を経る後此の物体狀を得せし次に細枝及び葉を剪裁し扶ちし及び結紮し以て其細小部まで完成す。乃至其巧緻ある者と譬へて鹿、鷺、鷺等の一群を頗る良く模扮せる者の如し。○又一隻の河舫を模擬し舫内の居室及び諸具に至るまでを整へ更ニ磁製の小なる楫工を添へ

あしを修飾せる者あり。○鳥獸の目ハ或ハ磁器にて造り或ハ塗彩せる木にて造り。○凡そ此諸品ハ皆長さ三四尺廣さ一尺許ある磁盆の上をこまを造り。○此園中他の一部ハ所謂矮樹及び矮小園を製造せし即右に謂へるが如き盆盃は四株六株或ハ八株の甚少ある樹木及び草類を栽培し其間ハ巖石の状を擬せる者と置き苔或ハ茅草と交へ種ありて村落の状を賽せる者あり。○斯く狭小ある區域中にて其小樹皆全く山林中の盤屈せる老樹の態を備ふ而し

て其全局恰も觀戲鏡長二三寸あるを倒みし
て一景勝を望むの趣あらむ○園主甚ど殷懃
ありて解すべし英語を以て此矮少奇巧の造法
を話統せり○此般の矮老樹を作るに憐むべ
し先づ其草木樹の藁をして久時素育シタフシラヘを經せし
むるを要す即ち土を小ある石灰石と少許の
土とを盛むる盆に栽を極めて稀ふ土と水とを
灌く土とを因りて培養よく生長するを得ず
して其藁疣瘡を生し且つ勾屈をも加ふるに屢
其皮を傷りて以て老樹の態を得せしむ○斯く

ありて其幹最も短少ありて而して其太さ漸く
欲する所の如きに至るときに則造育の第一件
を行ふあり是藁の枝條ハ通常ハ向いて正直に
生長する者なれば土を横倒或ハ下向下方に勾屈
し且つ土を轉換チレコダ疣瘡の状を得せしむるに
此中ハ嫩條の皮を剥せる者を挿し樹皮を以て
此上ハ捲縛し且つ接皮蠟を施すなり○予も不
幸ありて支那の本草を闇りてありて此培育
をみるにあらで培育を妨げたる小樹ハ何種か

属する者あるは此を録載することを得ず但し
予が見る處に據るは此矮小園に用ふる者も禽
獸を擬するに用ふる者も共に同一種の樹あり
而して其幹及び枝の形状ハ亞米利加の北地
に先づ其草木樹の葉をして久時素育を經せし
松ボインに甚ど類似せり但其材質暗を含むこ
と少きを異ありとするのみ其葉ハ椈樹ボイン
の葉の如く一處より叢生し其形ハ却て心臟状
にして纖維様其色黯緑あり花ハ其矮小樹に於
てハ見ることあり但其禽獸の形に擬曲せる樹
小於てハ白色細小の星形花を着くるを見し

其花形ハ甚ど此ルテ樹の花に似し又其全樹
を以てするは頗る善く此ルテハ類似せり
主ハ園丁を業とあす者と見ゆ右に謂へる盆樹
種の草樹ハ皆賣鬻すへる者ありといへる其價
を問ひけむに高さ四尺ある二個或ハ矮小園一
個の價三「ドル」ありといへる噫斯く奇異な
る殘廢を生せしむるは年を積むこと幾許を要
するを思ふとき其價の廉あること實に憐む
べき也
景二園の最奥に一阜あり此阜上より低き牆を

超えて支那の一富高の領内を望観すべし此富
高み属する園の凡そ長さ三百歩許園内の一溝
曲流す溝上り木造の小橋に彫鏤鍍金の修飾を
施るを架したる又園中の一二の處に小涼亭
あり亭の近傍に二少女の出て釣を垂るとを
見ると其扮装して察するに蓋し貴寺に属する
者なり○予は竊りて橋を登り橙籬の間より此
二佳人に近づき見むと用意せしに「君予より
後より早に登りて来りけるが誤て躓せり」○此響
に驚きて彼二女四周を回顧しけるが忽ち二人

の洋人を見て急し其釣竿を水中に投じ鶯雛の
如く逃去れり支那の婦人行走の状を予は去
きを鶯雛に譬へて善く其態度を表すと謂ふか
○此園内なる自餘諸種の草樹を大小の盆盃
に種をけりて甚く多く置きたる但花は甚く稀
なり蓋し時季に由るありべし○總て此園の光
景は支那製の磁盆花瓶毛氈等と繪きしるを曾
て見しるに甚く類せり
是より予寺に再び「コンテル」に降り河を下りた
る○廣東府の卑低の處にありて何れの地より

そちを一望すべき由あり但府の後ある阜に
登る處を得ざるに非ずと雖是も予等の巖小
禁停せらる所なり○予等幾多の河流廣東府
の内部に通流する者は遊行せし其西岸に數
層の築きたる家居あり○此溝渠に幾條の橋あ
り徑凡二十五尺ある穹窿を以て築成せし其墁
壁を甚く巧妙に巧り且つ清楚に保存せし此溝
渠及び橋と小舟の多く従へると小く河辺の光
景頗る勿擲茶を彷彿たり○支那人の豚を木籠
小入き小艇にて送り來る者を府内は運搬を

るの方を見けるが今此を記して一喙を供ふ○
狹隘ある市街は民口緊密あると豚の性剛強あ
るとに因りて故縦して驅走をあたふを得すこ
れに因りて次の方便を考定したる○竹を以て編
いたる圓柱大さ凡そ豚に齊く前後共小放開せる
者を豚籠の口を開きたる處に當て一人其後より
圓柱内の葡萄一豚の尾を把捉し其を扞ひかち
し豚痛に堪へずして籠を出で、圓柱に入るよ
至る豚既に圓柱に入るるときも直ち其を扛
挙すこれに因りて豚の四足編いたる竹の空間

ふり抽出し豚全く力を失ふに至るあり○是は
於て竹籠の上辺に一條の棒を貫き二人みくち
まを肩お擔ひ各處に搬輸を○予曾て豚を籠よ
り放縱するを見ざりき蓋し又此般の鎖閉を行
ふあるべし

時已に午後あるける頃予は廣東府に正對して

河の南岸に在る所の「ホオナシ」寺

按は河南を遊
寺か未詳

覽せむと欲したる○予等喬木の並列せる處に
り陸より上り大ある一門を通過せし此門の左右
に每寺の前院の前は當りて幾多の醜陋ある小

舟を繋ぎ諸種の食物及び自餘の諸種汚物を鬻
げし此河辺の甚ぶ寺院多く長さ五百「ヤルト」
の間は大寺七坐あり其他一二の小寺及び属隸
堂院予が至り見るを得ざる者も此外は在り○
ホオナシ寺の門に入りしを第一院を貫き凡そ
廣さ十五尺許ある碑石を敷きたる高さ路あり
此路一直は通貫し境内ある三院は達す此處より
阜の一種とあり正中の院を周廻し院の後
に至りて再び正直に通行す○第一第二の西院
の間は更に第二庵あり而して此二院を共は大

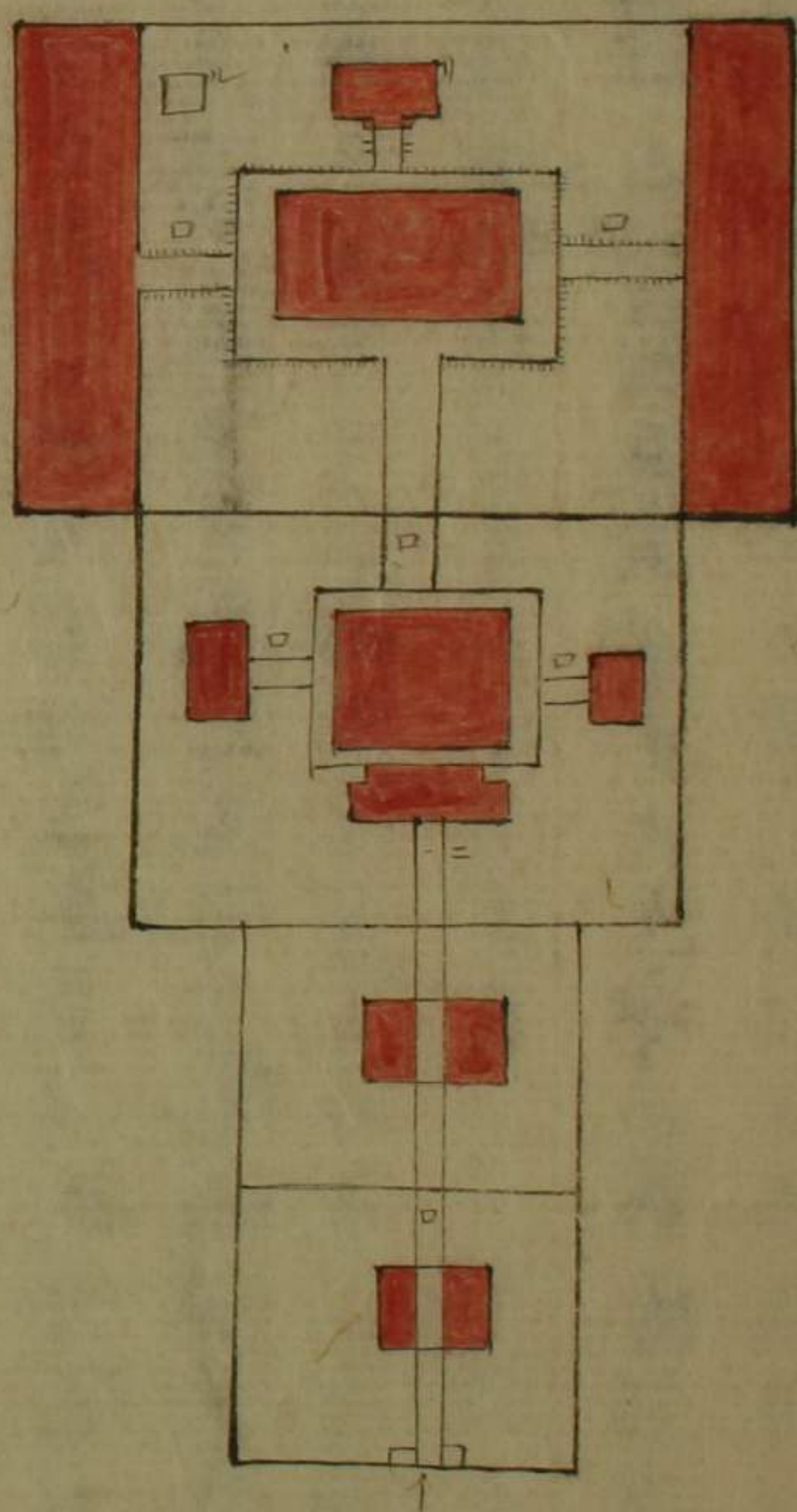
前房の趣致をあり上小謂へる中路を貫通
也○此二院の内中央は路を並びて每院の左右
小四個の恠形ある像あり各々高さ二十五尺
り二十尺許ありて其坐の高さ五六尺許○此像
ハ予此他の寺院にて亦屢々見る所ありて大
低怒張せる軍士の状ありて黒髪を装し午小長劍
を把き○此茅二房を逼くまハ更なる廣き一庭
小出づ此庭の奥庭は高さ十二級の阜ありて阜
上小大院あり其階の左右は獅子小肖する二個
の恠像あり此院の左右は二坐ハ小院あり碑石

を敷ける路ありて此二院は達也○其最後の
庭は即最内の庭ありて格子ありてまきを遮隔す
此庭は最大院あり是即ち本殿ありて高廿六
級の階上ありありて其周囲小欄を施せる廻
廊あり○本殿の更なる後には七級の高サある最小
小院あり彩飾最も多し蓋し所謂神の所在あり
るへ廻廊の左右は終端は幾多の家屋あり蓋
僧侶の住処ありへ
右の諸院内部の光景ハ槩皆相同し但其彩飾は
多少あるを異ありとするの、最後の壁は前院

の深^サは三分二許ある処に常に大なる神像あり
其左右に二個の稍少ある像ありて之を擁護
を各像の前^ニに神臺と卓子を置其車子に供物を
此に載せり^ル為あり○神像の後^ニに小なる木匠
あり此中又別^ニに神臺をおく此上^ニに花及び香
具を載せた^リ○門口の右側^ニに常^ニに一個の大
なる乳香盒を置けり而して左右両壁^ニに浴^テ几
案を列置^シ其前^ニに僧侶の坐せる者あり其僧の
傍^ニに乳香及び自餘敬神^ニに用^ユる品件を置或^ハ
書記を務め或^ハ紙上^ニに書^ル禱文を讀誦せり

其壁の黧灰色の粘土を以て造る但焼^カとなく
強壓^シて乾固せしむるものありべし然れども
頗る堅良^ニし且美あり○柱及び彫塑せる諸
部の大抵細粒質淡灰色の碑石ありて造^リり或^ハ
木彫りて彩飾を施^スるものあり○每一院の
四面^ニに各々一戸あり其最終の一院は^ハ中
央^ニに一戸ありのみ

廣東府の近傍ある大ホオナシ寺の周圍



一 大門口 二 高築路 三 前院 四 茅二庭 五
 其西側の小院 六 格子 七 首院 即 本殿 八 神廟 又
 僧徒の住居ありへ
 其首院の左側は深き井あり柱を其周に建て蓋

を以て蓋ひたり此処にて毎日定數若干の貧民
 小羹を布施す○因み云々をべて支那人ハ週濟を
 与ふるを好まざると見へし又支那にて
 ハ瞽者各家に踏入て獸骨或ハ竹にて造る一
 双の杖を以て騷擾を許すこと見へたり
 予嘗て見けるは一瞽者某の一舗にあり事一小
 時の久きやうて家主毫も之に應接を事お
 く竟に數ふるに足らざる暮化を得て歸せり或
 又竟に布施を得るにあく力を失ひて歸せりも
 ありけり○予余再い「ホウナニ」寺の話説に歸る

予ハ此寺院の縮幕を作りけり。例の如く人衆
群聚シ久シカラス。て数百人及ヘ。予ハ
最後の院より写シ始め次第ニ前院ニ及ガセ。予ハ
○始の程ハ人衆稍離れて傍觀シけり。奇を好
むの情増加して次第ニ接近セ。予最近の者
を軽く擠排シ以テ稍工場を寛鬆するを得。事
三回及ヘ。然れども人の輻湊愈増多セ。予
至テハ此手段亦功あり。至。其帽集せる
民ハ多くハ皆極賤の人。其臭甚。不快。

予ハ予ハ慎て色ヲ現するをあり。予ハ
○然れども予の鎮靜ある状態却て益々彼の徒
の汎濫を生。遂ニ一個獸面の浣皮暴卒が来り
て予ハ頸後の髪を挽き。予便チ身を翻シ
一拳を以て打ち。予遂ニ静止す。予ハ飛
の階を混下する。予ハ十二級あり。然るも飛
礫雨の如く来り。予遂ニ静止す。予ハ飛
る。予ハ其故ハ予及ヒ同伴ヲ尋るの疑を
避る。予ハ武器を「コンデル」ニ残シ。来れるを以
て。予ハ○但し予の一拳稍群衆を威服する。予ハ足

ると見へたる而して予等衣の一裂を得るもか
くして寺門を出た。然るに門外の雑沓再び
甚しく予の同伴の少年逐は予と相失せり予は
只務めて路を開き歸らん事を欲した。斯くて
漸徐に歸路に進むに随て畜生一般の浚皮益々
増多し其容姿益々忿恚險惡あり。然れども予
は意外に己の河岸に近づきたる而して思ひさ
るに最近の等予等の「コンデル」の緑蓋を見
り當時の喜実と言べからす。我は此時一個の
支那人を舟に翻し跳一躍して河舟に登り急にお

手小刀を把り他手は馬銃を握りて再び堤上に
登り「アラアツ、ホオン、ヨンケル、ボラント」アラア
ツ、カナイル、アラアツ、と叫びて叶ひられ。此詳語は
恐しきや或は馬銃の喙を見て恐しきや群蠢頭
の散開しければ總督の書記も亦舟に來る事を
得たり。此時揖口急む船を揺出し罵詈の聲中
舟は己の岸を離れた。後聞かぬ処に隨へば彼
の浚皮等ハ予等の無難に歸りたるをよみて罪
を免れしとて此時予は又礫雨の來るべきを察
しければ「コンデル」の蓋板上に立ち第一巧技の

石を石待て答へんと欲しけるも復石あくりして
舟ハ已ハ十分遠く揖出せり○予等相共ハ事お
さを喜ひ「アコウ」君の旅館ハ歸りて豊美ある膳
卓ハ就き以て此日の勞を忘れ且予ハ買たき
華麗ある「カアックホルド」の美盤盤ハみて爽嬉せり○宵
に至りて予再ハ月ハ來りて高館の園内を逍遙
せり此地ハ住むる高人及ハ外洋人共ハ其家眷
を伴ひて此園中に夜色の清涼あるを賞ハたり
○良友ハ會ハ快話を聞ハ皆人の喜ハ知ある
予ハ殊ハ近日此機會を得る事稀ありければ此

夜ハ常ハより山更に樂ハく覺ハへたり○此地ハて
交易を業とする百兒ハ亞々人亦此園ハ出テ彼此
の樹下に徘徊ハ或ハ西三相伴ハて各処ハ坐セ
り其容姿愛すべく其夜ハ長ク百兒ハ亞々の「カフ
タン」の外套類ハを着テ頭ハハ蠟布の異様ある「トルバ
ン」帽ハの名を戴ケり○此種の人ハ實ハに端正良行の
人ある事皆人の稱賛ハする所あり○予曾テ黃埔
にあリける時一夥の百兒ハ亞々人ハ船上ハ來りけ
るハ極めて精細ハ船を巡觀ハ且其拙訥ある英
語を以て彼此の疑問をハ其天資の伶俐通達

あるを現せり○予等の坐せし所の近傍に一小
茅叢ありて體制を習熟する爲の演技場と爲せ
り而して幾多の少年の此所ありて諸種の體制
を演し樂めり○又一箇所低き屋蓋の下に五十
隻許の楫艇の一隊あり此艇ハ甚長くして幅僅
に十二寸に越へず而して皆此地の楫工夥伴に
属せり○此艇ハ極めて輕捷に造構せる者あり
て予の未夕曾て見ざる処あり其板材ハ厚僅に
四分寸の一ありて漆髹し其外面ハ磨光せり而
して水を截るの疾速ある驚異する可堪也とい

ひり○此夜ハ月明り風静ありて予の遊興止
む難く此艇を僱ひて尚河上を泛びむと欲しけ
るに楫工時々河上より出沒する盜あるを恐れて
纜を解くを否きたれハ遂に止むぬ○其話說む
隨へハ此盜の常習ハ所謂臭壺あるを其の艇中
に投入す此器ハ一器ハ一種舎密和合の劑を充
て外氣を絶ちて密封せる陶壺あり此壺破碎し
る時ハ其近傍の大氣を以て多く有毒の瓦斯を
含まりむらむらして舟中の人全く臂脚の力
を失ふ盜此際より乘りて或ハ貨物を盜み去り或

ハ其力あり旅舎を縛り去り後ハ贖身銀を訪求
すと云○水師提督「カルレスナピール」嘗て此計
に罹りて縛り去らる而して其放縦を買ふ々為
ハ三千ドルを償へりと云○是ハ因て予ハ
敢て危険を尋ぬるを好まず只務めて久しく此
良夜と好友の會ハ伴ひ遂予の卧房に帰りて
一碗の茶と水煙管を用いて後予ハ蘭帳を下し
けり

日本行紀

第十篇

阿瑪港ヨ還る事

支那の市童

支那人の残忍

河邊の「ハオテ」を見る事

墳墓及び葬式

支那の獵人

阿瑪港の景色

交易の衰微

天然の勝景

「カムウ」の墓

予々告暇の朝今已に満ちけるうへに廣東にて凡外洋人の遊觀を許さる處ハ已に遍く歴覽せり而して又支那人の齋聚と其掠撥を好む性とハ實に厭ふに堪はりき蓋し支那人は頗知識開けたるものにても動モすれ此失を犯すを以るる〇是を以て聖朝務て早く程を費し昨日用ひたる「ゴ」ンテ此にて廣き黄河を下りけり〇其

前ハ於て支那の坊間少年輩の常好む行へる賭戲を見し〇二個の少年各同数の「ケ」エケル金鏡兒の類を出ししを銀葉盤の上ニ載せ少間時これを擠攘して遂に此虫怒張して互に闘起するに至る其状頗彼の闘鶏の趣に類せり而して或ハ軟弱ある虫死するに至りて止む或ハ一足若くハ一翅を失ひて止む〇予此戲を見て猶中央「アメリカ」にて曾見し闘鶏戲のこと共み禁停すへき所ありと謂へり而して竊に願はくハ彼の鉄葉盤を取て少年の禿顛に冒せ其耳

采の打釘して以て其犯を表せむとを假令ひこ
まふ因りて今代の「オルヘウス」名人とありて背後
ある石を活動せしむるも亦敢て怕れざる所な
る也按「善を民を服し」或ハ其歌を以て獅子虎等を
馴致し又ハ岩石等を活動せしむるも譬ふるあり
然れども此般の弊風を強て改正せむと欲する
ハ所謂鳥鬼の洗澡按「本邦餘蠅の譬也」とありこと古よ
り明證ある所ありハ黙して止るぬ○蓋支那人
の第一凶邪の性ハ残忍あり故に彼此一二の邪
行を督責するも能く其根本を除くへざる非ざ

るあり○更に一戯あり二個の饑へしるヤマトリ鷓雉の
間も一粒の米を投し一個あまを啄まんとする
とき他の一個これを打撃し以て争鬪を起さし
め羽毛毳落するも至るぬ○予又嘗目撃せる
も父杖を以て其子の光頭を打撃し血漿流漓し
ても顧みざる者あり○支那人ハ人を打つ小殊
も頭顱を擇ひ打つ習いあり故に予う見る処の
賤民其秃顱は創瘢ありハ殆希あり又あまも因
て此國の民種頑骨頭あるを證とすへし
予ハ此好便に乘りて上の説ける「バコオテ」神廟の類なり

一を遊觀せむと欲したる但其第一の「バコオテ」ハ
これに到着せることを得ざりけりそのあへハ
廟前なる福田漲溢して渉り難きを以てあり但
第二の「バコオテ」ハ黄捕を距る處と三里の処に
ありて能くこれに到る處とを得へり○此「バコ
オテ」ハ一島上の岡頭とありて岡下なる支那人
の住せる一村あり○始予ハ此村を廻轉して行
走すへりと謂へるぬ其野ハ溝瀆ありて隔断し
けれハ此村を廻ることを得ずこれに因りて村
の正中を通貫せる一路に就て進行せり○此路

及び其他の支延街頭及び橋梁ハ皆幅廣き石を
しき清楚にこれを保存せり又村中の家屋予り
見ける者ハ皆灰色の瓦を以て築き成し或ハ装
飾を施せるものありけり○中ハ一二彫塑佳麗な
る家ありけり蓋往日寺院或ハ訟廳に用ひしる
者ありと見ゆ然れとも目今ハ廢屋とありて半
ハ荒敗せり

此地ありて亦予の後ハ追蹤する民衆頗多うり
き但其容姿皆稍温優あり予も亦往日より戒
心を加へ予り武器馬鉄刀の類をを携帶せり

觀望最宜きの地を擇ひて後予々穩坐して彼の
神廟とこれに隣れる寺院とを摸寫するの業に
就きたる彼の民衆敢て槍前せず妨碍とあらさ
る趾離し静止せよ○中小兒女数人あはけるり
一兒予の枝を貪著して稍予に近く進みけるり
予あれば袋裡にありある橙^{ダイダイ}子一個をあはへた
るとき○橙^{ダイダイ}子一個は極めて徴少ある贈饋あはれし
此地ふてはこれを厚敬を表するの徴とあはしと
見へたる其兒の父更し一兒を臂上^{ヒデ}に抱き近く
進み來り身を屈むること幾回あはして予は一束

の花を贈り以て答酬の意を表せよ○次て又幾
個の村民あはれし働いて花草を予に送りければ
予は復あはれし酬むる物あはくして殆^{タビ}窘^{シマ}法^{ホウ}せよ
蓋銀貨の假令これある由謹て民衆に示すあは
あはるへしと曾嚴戒せられしは銀貨は予あ
るあはしを欲せざりしゆ○幸し予の袋中^{フクロ}に尚
尚捲^{マキ}草^{クサ}少許有ければあはれを以て答礼とあはしけ
るり是又予へ盡したる仍て残余の惠民^{イミン}に爆^{ドク}
胃^イを予へ多るに極めて奇品とし珍賞せよ予は
更し其用法を諭をが為し一柱に結紮せる西爪

を射落して示しければ益ちれを奇賞せよ○あ
れみ因りて予一囊み二蠅を捕ふことを得よ
得一挙両の意 即一みハ以て民衆の信敬を得一みハ
以て予ウ動作を妨くることありらむるあ
を得よとかくて彼の神廟を詳査するも亦容易
あるあとを得よ

所謂「バコラテ」ハ岡頭み屹在し黯灰色の磚を以
て八積ふ築成一甚堅き白色の石灰を以て蓋ひ
たよ○此建築よハ元層の廻廊ありて往昔々此
み尚木造の廣き棧板ありしなり但歲月の齒牙

悉く其木部を蝕りし獨漫壁の部のこ尚完好
して往古み異るるありと見へし○其漫築せ
る諸部ハ甚壯美ありて殆新築の者のこし但彼
此の部み苔草の長せよみて其廢趾たるを知る
へし○此地ありて家居の造築よ用ゆる木材
ハ「セエテル木松の類」ありて殊み堅実久し耐ふる
あし異常者ありみ災を蒙る跡も亦く又一
二の天変等み遭へる痕も亦きみ全く消し盡さ
て毫も餘りを留めざるハ其古代の者あること
を知るへしの一徴あり○此建築何等の用を成

せし者ある諸説ありて一定せず中より就て哨
守^{アイブ}號報^ブを用ひし者ある處いと云へる説を予ハ
最も近しと謂へり崇神の用あるへしと云う如
きは固きと憑據なき所あり

八稜の四面より幅狭さ中実の級あり建築の中央
より向いて直角より通す然れとも厚十三尺あり壁
の最終よりして止む〇此處より往古より木橋ありて
直徑十四尺あり中央の空地上より亘せりあるべ
し其故ハ此級より正對して同一高さあり此より更
に石級ありてありて次より最外の廻廊達

すへく造せざるを以てあり又高處より頭せしる級
穴の位置より因て察せざる毎一層内部の廟より
次層より交るるも為し外廓の八分三を轉行をへく
造れりりのあるへし而して其所より別に門口あ
りて次層より移り此層ハ正し其下層と四十五度
の角をあす斯のごとく次層より昇りて最上層即ち
第九層に至る此層ハ則復正し第一層の直上より
在るあり〇級の高サ及び其数を以て臆度する
る其第九層の高サハ二百尺ありへし而して是より
上尖頭に至るまで尚二十五尺許あり故全高

ハ二百二十五尺或ハ二百三十尺あるヘー○此
奇観とすヘー舊跡ハ全部碑石の礎上のみあり
「バコオテ」の側ニ一寺あり其中一線ハ恰も「バコ
オテ」の中央ニ向ヘリ而シテ二院と一庭とある
その庭ハ美あり老樹あり○其建制の或ハ全
く工ヲ謂ヘる「ホオコ」寺の式子同シ但彼是ハ
少許の差異あり○其裝飾の式及ヒ彫塑の
法精巧ありて且清楚ニこれを保存セリ而シテ
地形の急峻ありニ因リテ出来ニ望ミテ實ニ図
畫の如シ○又図の斜脚ニ墳塋あり但山脚を墓

地とあるハ此地の通習と見ヘたニ河邊の斜坡
ニ往リ白色の墓石あり處多きを見て知るヘー
○富擾あり者の墓ハ其周ハ心臟形ニ紙壁を築キ
其底ハ當分ハ門口ありて尖ハ當分ハ墓あり
るを常とす○貧民の墓ハ亦其圍周の形ハ相同
シ但土を堆積するのニ○其墓塋ハ貧富通シテ
相同シ而シテ皆土を積ミテ塋トシその上ハ一
片の紅紙と黄紙とを覆ふ此紙ハ「禱文」を記セ
る者あり而シテ其最上ハ一大片紙片を覆ハ草
菜を以テ之れを鎮定セリ○予後ハ阿媽港あり

支那人の葬式を見よと今其記を此に附を○初
数個の人旗幟及び斑色の旌を擔ひ行く次は二
個の臺に各神像を載せしる者を搬も此神像の
周圍に伶人一夥ありて樂を奏せり即或ハ「アメ
リカ」の「オフウ」に似しる長き器を吹き或ハ「コン
ガ」の樂器及び小ある「バウグ」の大鼓の類を打ちしり○又
他の人負ハ乳香爐地火鼠及び諸種の小ある烟
火を携へ時々火を放ちしり○次は屍臺を擔
ふ其上に櫃を載す櫃ハ圓板ありて造りしきを繩
おかく○櫃の後は一僧従行す而して最後は喪

服を着せる人衆一夥追従す○墓君が到着をれ
ハ其柩に向て禱文を讀み且香を焼きて後墓穴
中おこれを下す○最後は又一二の地火鼠を放
ち以て其式終るとある○葬式の記ハ因ナキに此に
録載す今又當に「バゴオテ」の度を記すべし
予方は測量と摸図との準備をありて阜上にお立
ちける時忽ち河の方にお馬銃の響を聞きたる而
して艇上の人予の方を遙にお瞻望するを見しり
是にお因りて予便ち予う器械を收拾し務て速にお
河岸にお至り以て此騷擾の因を問ひあり○「君

予の久留するを憂慮し且民衆の多く「バコオデ」
の方子群集するを見て或ハ不慮の憂あるへき
を思ひ馬銃を以て蹄炮を行ひ予若かれむ答ひ
さるときハ日入の頃ハ「フレカト」の方子帰る救
援を請ひむと欲せしあり其故ハ「君ハ予を以
て囚捕せらるゝと謂へハあり○予の歸る来れ
るありて此憂慮の全く無根あると明ありけり
而して予等再河を下りけり

途ハ在りて支那の獵人二名ハ逢へり共ハ銃を
携ふ其銃ハ長八九尺ありて其喙ハ僅ハ徑半寸

許床尾ハ馬銃の床尾如くあり而して尋常の
機を附けし按又火石機を但此種ハ銃ハ廣東
の地ハ上りてより予始て見ざる所あり○斯く
不利ある銃を用われとも尚をよく許多の鷓と
灰色の鷺二隻とを獵し得し○其一隻ハ唯傷
せるのみありて死せざりし支那風の残忍ありて
生ありらこれを携へ歸り務めて久く貯ふ便
とせり○其鳥の啞喙するを妨げんが為小稿穂
を両眼の下瞼ハ貫きしを頭後ありて結紮し以
て盲とあらしめし

日已の全く暮ける頃予等方小船に歸せり○翌
早予等の船碇を捲き阿瑪港の方に蒸走し曩日
の湾泊不到着せり

曩も阿瑪港に碇泊せる時間ハ甚短く且し其ハ
上陸すへき餘回もあらずければ今ハ其阙を補
はむと予ハ甚し喜ひしと

予等の碇泊せる処ハ岸を距りて凡六里許ニ
して海浅く水黄色なりして汚れと氣候甚寒く
天色黯淡けり而して風吹ちと烈しかりし○船
上ハ大氣の壓重を覺へて不快あり是れ石炭

及び食料の採收を務むる大船等小常ニ然る所
あり是れ因て船上に在りてハ絶へて愉快あり
時ありければ少時も早く上陸せむことを欲
したる

阿瑪港の廣東に於ける一奇の對埠頭と云ふ
へし○波爾杜瓦爾の盛ありける頃々支那交易
の尤大なる畜積所ハ此地に在りければ此半島上
あり一府速に廣くを増したる○邱阜の府を睥睨
せし者ハ堡寨を設けし其建築當時に在
りてハ十分堅良と稱するに足る○幾處の殿

堂僧院及び其他高崇ある厦至多くハ甚^ク巧麗ニ
造構^ル以て府の觀望を壯美ならしめんと又其
市街ハ廣濶にして碣石齊整ニ一見して其富繞
あるを知る^ヘ○行樂の地井泉大階等亦皆整
美ニ保存し而して波爾杜瓦爾人建築の風ハ彼
の里人國の趣を存し且支那にて流行する所の
色彩を益^ク取りたるハ其國の性情ハ協へる
○土人ハ性友愛ありて頗る伶俐ある其風俗甚
陋醜ならず活計亦窘澁ならずと見えと要す

は媽港ハ罪人の「カントレス」人廣東ニ像ニ形
造したる地にして波爾杜瓦爾の時代ハ繁榮し
たる地あり支那人亦要地の半島にして街
内商賣盛みありて街衢ハ町内ニ建廣うり丘ハ
支那領にして強き「ゴルデン」血ありとど名つ
一城の一種あり又をへて美廉あり寺觀數多あり
町幅廣く平地あり町家都て有徳あり亦諸
人を遊歩せしむる逍遙場且泉有亦石壇を順よ
く敷て寺あり是波爾杜瓦爾の造營したるを
曰し人再建し後支那人彩色したる故ハ香港

の英吉利造営の寺あり勝りて最も美觀ありとす
○此地ハ人を長育する事ハ自然ニ功者あり
此地食物ハ富ニ至て下價ありと覺ゆ更ニ缺乏
の物あり然れども當時媽港ハ川浅くありて香
港ニ於てより獨陸ニ遠くあり小舟も亦近く
繋るるありとす我國のそく陸迄凡六里もあり
て荷を運ぶに小舟を以てす大船ハ陸近くあり寄
る事を得す誠ニ面倒あり地ありて川水ハ只吞
水ニ足り且街家ハ都て灰燼とあり唯北方の端
ありのこ少く畫くへき処残り是岩丘ありて丘

の上又ハ下り支那の社あり高さ所ハ石壇を築
くありて至て美麗あり爰ハ此の如き社五あり
此内最上ありハ甚廣き僧屋あり此宮ハ岩塊ニ
して彩色流金の金具を以て飾り且美麗あり古
樹柵を起して彩色ありて光りある宮ニ薄き青色
あり金葉を向け影を寫したる此絶景を書寫す
るハ甚時を費せり如是絶景を支那ニ於て是迄
見ざり

此寺境を退て大なる園ニ至る此園王園中ニ
入る事を「王」人君ニ免せり此園甚好き景色あり

且諸々徘徊して老樹の下涼々たる蔭に休息を
亦他所に洞穴あり此洞中は銅圖の頭ある四木
の柱を建て此中より千五百年代の官服したる人像
を畫す此像は「スハーン」^ス國の活發ある文ありて
「ロイス」^テカムーン「ス」^ス名ナスナオ^上同ハ千五百二
十四年亦「モレラ」ハ千五百七十年の人あり此人
々々碑を功者ある諸人作りて此像に刻し亦残
る八行ハ像の脇の方より刻したる
此近邊に岩あり此岩上の後世の人此詩人を誣
るの文を記せし板あり

此次の右文記し有り依て此処に書載すへき
あれとも右文ハ弗良斯の詩ありて速に譯し
こゝ故に熟考の上再記すへき

此碑を置ける場ハ金錢を費さるる所あれ共甚
味ある風景あり唯愁ふへきハ人手入を為さ
る事を此処ハ此のこゝ媽港人眞実あり故に意
を損ふ支那に○築城等ハいつちありしハ雖不
足あり処あり且砲ハ古くして配る方甚拙なり
砲臺に腐損あるは是は何國にして盛^ハるよ衰^ハ
の今に至る迄其終に捨をく故あり波爾杜毛爾

の都府ハ昔より今に至るまでコロニーに時
代の勢を失はざる様平和あるに勉強せよ香港
の交易ハ前条の次第にて減るの勢あり已に大商
人等ハ此處を退去せよ又土人曰我むきの倉ハ
香港より移さるゝあらんと

